

ラオスの こども通信

58号
2013年7月発行

発行：(認定)特定非営利活動法人 ラオスのこども

- 南部の郡教育局が、ブックフェスティバルを開催 ▶ p.1
- はじめる・つながる・つくりだす [2013.4-2013.7]
ラオス発 ▶ p.2 日本発 ▶ p.3
- みんなでボランティア ▶ p.4
- 「勉強会」報告 ▶ p.4
- メコンのほとり「食」 ▶ p.4



南部の郡教育局が、ブックフェスティバルを開催。

子どもたち、先生たちに大きな刺激

ラオス最南部チャンパサック県のスクマー郡で、4月26日、子どもたちが本に親しむとともに、読み聞かせや詩などの詠唱を競う、ブックフェスティバルが開催されました。

朝、郡内の小中学生が先生に引率されて、会場となったスクマー小学校に続々と集まってきました。校庭にはゴザが敷かれ、子どもたちは好きな絵本を読み始めます。並行して、部門ごとのコンテストが行われました。読み聞かせや紙芝居は、自信なさげに小さな声で演じる子が少なくありません。一方、古くからラオスで受け継がれてきた詠唱や「おおきなかぶ」「三匹のやぎのがらがらどん」などの絵本を題材にした短い芝居などは、チームで演じることもあって、大きな声を出して、楽しそうです。

これまでブックフェスティバルは首都などでは行われてきましたが、地方の郡が主催(当会が共催)するのは初めてのことです。教育局のインターさんが中心となって、2年前から準備が進められてきました。きっかけとなったのは、以前、教育局職員が参加するセミナーで、ヴィエンチャン都の子どもセンターの館長が、ブックフェスティバルがいかに子どもたちと先生たち、そして地域の人々

により刺激を与え、その後の読書活動にプラスとなるかを滔々と語ったのを聞いたことにありました。

実際、コンクールを通して子どもたちはお互いに刺激し合いました。そして先生たちからは教え子たちの実演に固唾を飲んでいる様子うかがえました。今後の読書活動に熱が入ることでしょう。

地域の人々からの寄付が集まって

インターさんは、終了後、こう語りました。

「多くの学校が参加し、成功させることができました。初の開催なので、関係者がブックフェスティバルとはどんなものなのか、想像もできず、資金集めにはてこずりました」

会場設営や参加者に出す昼食や賞品・賞金など、なにかとお金がかかります。

「あいにく平日の金曜で、地域の人々はあまり来られませんでした。しかし、開催している最中に寄付が集まってきたのは驚き、またうれしかったです。私は定年退職しますが、ぜひ、第2回も開催したいと思います」

当会としても、インター氏のようなキーパーソンが後に続くことを期待しています。
(森 透/共同代表)



詠唱を熱演。手前は審査員



昼食のやきめし作り。炎天下で大変

ラオス 発

いろいろな教科で本を活用しよう

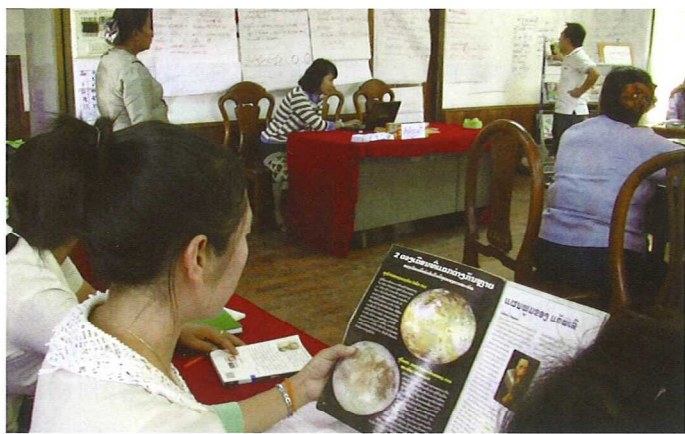
「調べ学習」のグループ作業

4月23日から3日間、チャンパサック県とセコン県の図書活動が活発ではない小中学校11校を対象に研修をスクマー郡で行いました。

学校での図書活動の活性化のカギの一つは、授業の中で本を活用することです。従来も、紙芝居や絵本など、おはなしの読み聞かせを取り入れることはすすめられてきました。今回の研修では、ラオス語、算数・数学、理科、英語など様々な教科に広げていくことを、先生方と県の教育官とでグループ作業を通じて体験しました。

当会ラオス事務所スタッフが講師を務め、例えば、ラオス語の授業を想定して、グループごとに文学作品の内容紹介をします。算数・数学であれば、様々な大小比較を、本からデータを拾ってまとめます。星の大きさ、東南アジアの国の人口、県の広さ、木の高さなどが発表されましたが、グループによっては、物の値段、魚の大きさをデータの裏付けなしに発表して、やり直しとなりました。

これは、調べ学習とよばれるものです。日本ではおなじみですが、ラオスでは多くの先生にとって初めての図書活用法です。学校の現場で、どの単元で取り入れるのか、今後の課題といえます。



惑星を見比べ、大小比較

各校が活性化の具体策と数値目標を発表

研修の締めくくりは、各校の図書利用活性化策の発表です。「図



改善計画の発表

書室に関わる先生を3人増やす」「図書室を開く時間を朝と休み時間にし、利用人数を50人増やす」「手伝いの生徒を6人にする」「先生全員が図書室に関わる」「教室での授業時間を減らして図書室を利用するようにする」など、数値目標とともに、具体的な策が出されました。

研修にはゲーム感覚のプログラムも織り込みながら、参加者が親睦と仲間意識を深めるものとなりました。先生方は、低い給与、少ない蔵書のなかで、図書活動に取り組みます。励まし合う仲間の存在は、大きな力となるでしょう。支援：外務省 日本NGO連携無償資金協力「小中学校における図書活用強化事業(第2期)」

(森透／共同代表)



研修にゲームを取り入れて

<出版プロジェクト>

●財団法人地球市民財団のご支援

『かんたんごはんー作ってかんたん、食べて健康』

作：パーラー(ラーおばさん)

写真：スックパンサー・ブパスック

部数：3,000冊

子どもに必要な栄養の知識とヘルシーなラオス料理のレシピ集です。「ごはん食べた？」があいさつ代わりのラオス。山の幸、川の幸が食文化を育んできましたが、都市部を中心に食生活に大きな変化が起きています。インスタントラーメンばかりを与える親、フライドチキンやピザなどのファーストフードを好む子ども、料理には多量の化学調味料。そんな毎日の食を改めるヒントにして欲しいと、ラーおばさんこと当会顧問のダラーが雑誌「ランカム」(Lankham、Dokked社出版)に連載した記事をまとめ、5月に出版したのが『かんたんごはん』です。

読者としては、おもに親の層を想定し、12のレシピをまとめました。全ページがカラー。色とりどりの食材や料理が食欲を誘い、つい手に取ってみたいくなる仕上がりです。もち米につけるトマトベースのディップ(チェオ・マックレーン)から、ハーブをふんだんに入れた鶏の煮込み(オ・ガイ)まで、人々に愛されている、作って簡単、食べておいしく健康な料理が揃ったレシピ集。学校に絵本などとともに配付して、各地の先生から好評を得ています。



『かんたんごはん』

『外国のむかしばなし』の著作権問題について

当会は2012年10月に『外国のむかしばなし』を出版しました。ラオス事務所が若手育成の思いのもと、人気の高い外国おはなし集を新たな着想で描く作品をめざしたのですが、既に出版されている絵本と似た絵での出版となって小学校などに配付をしました。

東京事務所は、他団体スタッフの指摘によって同書中の「おおきなかぶ」「がらがらどん やぎ3匹」が、福音館書店発行による『おおきなかぶ』『三びきのやぎのがらがらどん』に似て描かれていることを知り、ラオス事務所に配付停止を指示、出版社に事態を報告しました。現在、在庫分の廃棄処分、配付分の可能な限りの回収にとりかかっています。これを機に著作権に対する認識の共有を図り、創造的な作品の出版に注力していきます。

「子どもの日」イベント

5月末から6月初頭、子どもの日のイベントが各地で開催されました。ヴィエンチャン教育局と青年同盟でも大規模に行われ、子どもたちと保護者で大変賑わいました。屋外の舞台上で踊りや演劇を披露する子どもたちに大きな拍手が送られ、皆で盛り上がっています。ペットボトルの手作りゲーム、お絵かきコーナーにときを忘れて夢中で参加する子どもの姿があります。また、当会が出店する絵本販売コーナーに立ち寄る親子や、国立図書館の移動図書館では中学生以上の子どもたちが熱心に本を読むなど、読書の普及に手応えを感じます。

当会が支援する、読書活動に熱心なシータン先生が開設したケオクー子どもセンターでは、地域の親子で舞台と観客席が一体となっており、小規模ながら明るく熱いイベント。踊りの発表の後、先生から本などをプレゼントをもらい、ニコリ。みんなで子どもの日を祝いました。
(本多敏子／2013年5月から東京事務所スタッフ)



舞台の合間、絵本販売コーナーで シータン先生の奏でるケー(笙)の伴奏で踊る

日本 発

ラオスのお正月 ピーマイ・パーティー2013

来て見て食べておいしくラオスを楽しもう♪

4月21日、東京・大田区池上会館でピーマイ・パーティーを開催し、118名(参加者79名、ボランティア、スタッフ39名)でラオスの新年を祝いました。

今年も内容盛りだくさん。ピーマイには欠かせないバーシー儀式、多彩なラオス料理、目玉はヤシの実が表情豊かに独自の空間を生み出す人形劇。そして最後はみんなでラオスのステップダンスを踊りました。

「イベント内容もボランティアの方々も来ている方もアットホームで良かった!」「ラオスを応援する仲間と会えることが楽しみ」など感想をいただき、これからも大事にしていきたいイベントとつくづく感じました。収益はラオスの子どもたちの支援に活用します。

(尾澤美春／東京事務所スタッフ)



クイズで盛り上がり、航空券をゲット

絵本を送って、800冊を超えました!

7月6日、沖電気工業株式会社主催「ラオス語絵本をつくってラオスの子どもたちに送ろう!」が開催されました。厳しい暑さの中、社員と家族21名と当会スタッフとボランティア10名が参加しました。日本語の絵本にラオス語の翻訳シートを貼ります。

「ラオ語を聞いたことがない」とのことで、スタッフが絵本を読み上げる場面も。繰り返される「おんなじ= ອຸ່ນຈັນ (khukan)」ということばに可愛いとの声が聞こえました。

和気藹々とした雰囲気の中、69冊が完成。今回で14回目になり、初回からの合計が800冊を超えました! 毎年参加してくださる方が多く、継続的な支援に感謝致します。

(加藤 彩／インターン)



ラオス語訳を貼っていきます

「ラオス織物の魅力～服と小物たち～」

4月27日からゴールデンウィークは浅草の孔雀堂画廊で展示販売会「ラオス織物の魅力～服と小物たち～」を開催しました。ラオスの女性の生活向上を目指す「ホアイホン職業訓練センター」で織られた布や服、小物を中心に、モダンなデザインの新作が多数入荷。好評でした。

「織りの繊細さに驚いた」「ジャックフルーツで染めた黄色いストールはとても珍しく、おもしろい」などの感想をいただきました。

(尾澤美春／東京事務所スタッフ)



多様な民族の多彩な織物について説明します

*ラオス織物を販売していたギャラリー木場は2013年6月14日をもって閉じました。今後もラオス織物は取り扱いますので、小売・委託販売等にご関心のある方は事務局までお問い合わせください。

みんなでボランティア

ラオスのステップダンスを披露

光成 奈々子さん (ボランティア)

私がラオスに興味を持ったきっかけは、文字でした。ラオス文字の可愛らしさに一目惚れし、大学でラオス語を学ぶようになってから、「もっとラオスを知りたい! 学校の外でも、ラオスと関わりたい!」と考え、会に参加するようになりました。

昨年初めて参加した勉強会では、ラオスが今抱える問題を知るだけでなく、留学生や他の参加者の方と楽しくお話しでき、より興味が湧いてくるのを感じました。

今はボランティアとして、イベントを中心に活動のお手伝いをしながら、自分の知らなかったラオスの側面を学んでいます。とくに、今年のピーマイで、参加者のみなさんとラオスのステップダンスを踊ったことが印象的です。これから新しい人との出会い、新しいラオスとの出会いを楽しみに、活動を応援していきたいと思っています。



「勉強会」報告

第16回「ラオス語絵本を作ってみよう!」 (6月8日 ライフコミュニティ西馬込)

講師: 西村 恵子さん

日本語の絵本にラオス語訳を貼って、ラオスに送る「ラオス語絵本」作りをしました。あわせて、絵本の読み聞かせは子どもにとって、どういうものなのだろう、ということについて、保育園での豊かな経験を持つ西村さんに話していただきました。

—子どもは読み聞かせが大好きです。絵本は、読んでもらうものだと思います。子どもはお話を聞きながら、絵を読んでいます。例えば、『しろくまちゃんのほっとけーき』は、何度も読み聞かせをしてきましたが、場面でエプロンが変わるのを、子どもに言われて初めて気づきました。文字が読める前に絵本を読んであげることが大事だと思います。子どもはお話を聞き、絵を読み、想像力を膨らませ、それを創造的に遊びの中に取り入れながら成長していきます。

私はラオスの小学校で子どもたちに読み聞かせをすることがあります。400人くらいいて絵がよく見えないだろう子ども、とても興味津々な様子がわかります。一方、一人で読むときは文字を追うことに一生懸命になって、絵を見ていないかもしれません。そばに先生たちがいても、読んであげる姿が見られないのは残念です。絵本は読んでもらうものということのを伝えられたらと思います。—

表紙の写真 口承文化と読書

「オイヨイヨ」「ヒュー」と賑やかなかけ合いで始まり、手拍子に合わせて詠う、「スーン」と呼ばれる詩(うた)あそび。先生が詩の一節を詠むと、子どもたちは大合唱します。祭りなどで昔から親しまれ、太鼓に合わせ、振り付けをし、全身でことばのリズムを楽しむ詩(うた)あそび。こうした豊かな口承文化と本をつなげ、子どもたちが本に親しめるよう授業に取り入れています。子どもたちにくらべて、先生の表情がちよっと硬め。そのわけは、多くのラオスの先生にとって読書の体験が少ないから。口承文化と読書は、どうつなげていける? —8月の勉強会のテーマです。

特定非営利活動法人 ラオスのこどもの目的は、子どもたちが自らの力を伸ばし、人生を主体的に選択でき、公正で平和な地球社会づくりに貢献することです。教育が十分に普及していない地域のひとつラオスで活動し、ラオスと日本をはじめ子ども、人々の参加を通じて、だれもが成長の機会を得ることをめざします。

ラオスのこども通信 58号

2013年7月発行 編集人: 森 透

発行: Action with Lao Children / Deknolao

(認定) 特定非営利活動法人 ラオスのこども

〒143-0025 東京都大田区南馬込6-29-12 ミキハイツ303

TEL/FAX 03-3755-1603

e-mail: deknolao@yahoo.co.jp

http://deknolao.org

都営地下鉄浅草線 西馬込 南口下車 徒歩7分

郵便振替 00140-6-462494

これからの予定 2013年7月~12月

奇数月に活動ミーティング、偶数月に勉強会を開催しています。これまでは第2土曜日としていましたが、2013年7月からは原則第3土曜日(一部異なる日もあります)に改めます。みなさんの参加をお待ちしています。

<活動ミーティング>

現地報告、国内イベントの打ち合わせ、会の運営の意見交換などを行います。
7/20、11/9

<勉強会>

8/3、10/19、12/21

8/3は「むかしばなしと絵本・うたあそびと読書活動」(場所: ライフコミュニティ西馬込)です。

*各回とも内容は調整中です。日程が変更になる場合があります。内容や会場とあわせ、詳細はホームページでお知らせします。

<2013年度通常総会>

9/21(土)14:00~17:00に開催します。

メコンのほとり食

『かんたんごはん』のレシピから
豚の角煮(トムケームムー)

【材料】4~6人分

骨付き豚肉(お好みで骨なしでも。または鶏、牛、あひる、魚でも) 300g/卵 4個/にんにく 4かけ/赤小豆ねぎ 3個/生姜、(またはお好みでタイ生姜のカー、レモングラスのいずれか) 3かけ/パクチー(香草)の根 3~4束/砂糖 レンゲ1~2杯/白醤油(エスニック食材店で購入できる。ふつうの醤油でも可) レンゲ2杯/黒醤油(色が濃い甘みのある醤油。色付けに用いる。なくても可) レンゲ1杯/オイスターソース レンゲ1杯(なくても可)/塩 小さじ1杯/コショウ 小さじ1~2杯/油 少々/水 スープボウル1杯

【作り方】

- ①卵はゆで、皮を剥いておく。
- ②肉は一口サイズに切る。にんにくを叩いてつぶす。玉ねぎは厚めに切る。
- ③なべを熱し、油を入れ、玉ねぎを炒める。次に、にんにくを入れ、中火で炒める。次に、肉を入れ、砂糖を入れ、焦がさないように炒める。
- ④用意した水の半分を入れ、パクチーの根を入れる。
- ⑤調味料は、白醤油、黒醤油、塩、こしょう、生姜(またはカー、レモングラス)、オイスターソースの順に入れる。味を見ながら、残りの水を少しずつ入れる。
- ⑥卵を入れ、蓋をして、中火で20分ほど煮込む。
- ⑦卵を半分に切り、肉、卵を皿に盛りつける。



お好みで: 新タケノコ、にんじん、じゃがいも、大根、かぼちゃ、高菜の漬物を入れるのもおいしい。